

社会教育×NPO

— 課題解決と学びを両立する
エコシステム構築に向けて

特定非営利活動法人

ふくおかNPOセンター

古賀 桃子

ふくおかNPOセンター関連の教育 (生涯学習) (青少年育成) の取り組み

●協働のコーディネート

@公民館：行政との協働事業／福岡市



@児童館：企業の協賛事業／全国



●委員職

文部科学省

- H.27 「学びによる地域力活性化プログラム普及・啓発事業審査委員会」
- H.28 「学びを通じた地域づくりの推進に関する調査研究協力者会議」
- H.29～ 「若者の学びを通じた地域ビジネス創出推進あり方調査研究事業審査委員会」
「学びを通じた地域振興・S Bプロジェクトアドバイザー」(高校対象)
- H.30～ 「学びによる地域課題解決、高齢者の社会参画等の促進の事業に関する審査委員会」
「地域政策等に関する調査研究～高校生等が参画する地域活性化の取組の在り方に関する調査研究」事業審査委員
- R.5～ 中央教育審議会 生涯学習分科会、同 社会教育の在り方に関する特別部会

福岡県

H.27-28. 社会教育委員

●新たな学びのプログラム創出

Happyぼうさいプロジェクト／全国



●研修講師・スーパーバイザー

公民館館長・職員研修(福岡県・熊本県・大分県・青森県・兵庫県・岡山県・島根県・福岡市・北九州市・久留米市等)
国立社会教育研究所 社会教育研究実践センター 専門講座
社会教育主事講習(H.27 国社研、H.14～九州大学、R.7 新潟産業大学)
沖縄県社会教育大会(R1)
調査研究スーパーバイザー(R.2 岡山県、R.3 佐賀県) 等

ふくおかNPOセンター関連の教育（生涯学習）（青少年育成）の取り組み

●近年力を入れている取り組み

1. 多様な主体間での地域コミュニティの形成/再生支援

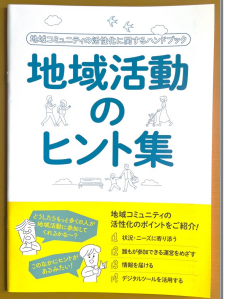
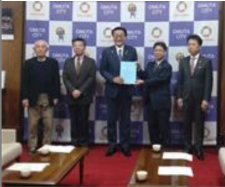


地域コミュニティの今後の在り方に関する提言書

最終更新日：2024年6月4日 [印刷](#)

地域コミュニティの今後の在り方に関する提言書がとりまとめられました

令和6年2月、市民や有識者等からなる「大牟田市協働のまちづくり推進委員会」にて「地域コミュニティの今後の在り方に関する提言書」がとりまとめられました。



2. ビジネススクールにおける実践的人材・オピニオンリーダー育成



北九州市立大学大学院マネジメント研究科
(ビジネススクール “K2BS”)

経営学修士（MBA）を授与する
社会人を主とする専門職大学院

中央教育審議会
生涯学習分科会
「第5回社会教育人材部会」
(令和5年9月)
発表資料より

1 / 2 頁

1. NPOにおける社会教育人材の活動状況

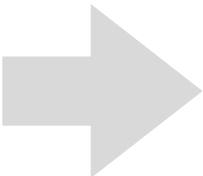
公的機関

- 公民館：「新境地」のための協働（課題解決、若年者の参画 等）
- 児童館：次世代育成のための協働（体験、学び、居場所 等）
- 学校：正規の教育の充実のための協働（学習支援、キャリア教育 等）

民間

- 環境教育：企業等との協働（親子向け、自然体験、SDGs学習 等）
- まちづくり：商店街・大学等との協働（親子向けアクティビティ 等）
- 地域福祉：社協・社福法人等との協働（居場所、人権学習、防災学習 等）

所感

- 
- ①ユニークな体験や学びのニーズの高まりとともに、官民で「社会教育」のタッチポイントが増幅している。
 - ②力量あるNPOが、各所で活躍するようになっている。
 - ③NPO間で「社会教育」の認知度が向上している。（例：主事講習）

2. NPOにおける社会教育人材の活躍に向けた課題

①社会教育の知見の活用（≡ 資格・称号取得の気運醸成・動機づけ、ファンづくり）

「社教講習を受講することで、自分たちの強み／地域での
立ち位置／これから担うべき役割を整理できた！」

「多様なつながりを得ることができ、現場の活動に還元できそう！」

②縦割りの越境

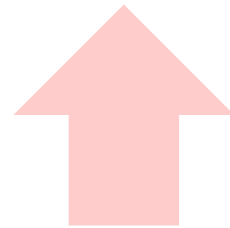
「自分たちのやっていることは全くもって社会教育なのに、
当の関係者になかなか振り向いてもらえない・・・」

「公民館、自分たちとは全く別世界と思っていた！」

③力量あるNPOと諸機関との接点づくり、活動の場づくり

「マッチングやアイデア交換が可能な、恒常的な環境づくりを。」

「民間公益活動を含む関係団体による取組に
対し、社会教育はどのような観点から
連携・貢献できると考えられるか。」



1. 越境の促進役

プレイング・コーディネーター

2. 実践者兼伴走者

3. 個々人の学びのモチベーター



1. 越境の促進役

①分野、主体

例：「防災」→ 子ども 外国人 アウトドア スポーツ 文化芸術・・・

「まちづくり」→ 歴史文化 コミュニティビジネス リバーション 防災 書店 映画

②エリア

校区/地区を横断した取り組みの必要性（例：公共交通）

校区/地区に必ずしも愛着を感じない住民層の増大（例：学校統廃合）

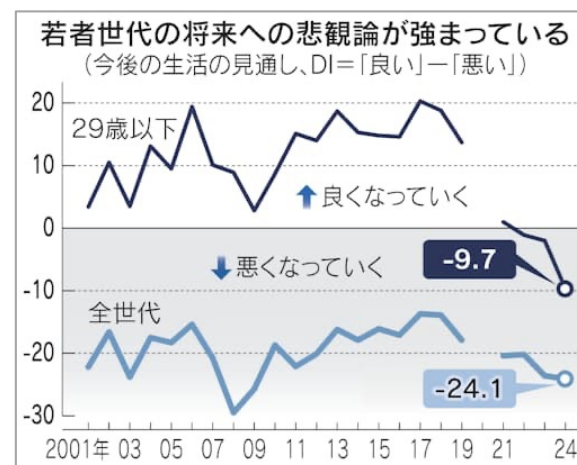
校区/地区にとらわれず活動する団体が活発化（例：子ども支援、災害支援）

③世代（住民相互）

情報媒体・伝達手段の多様化

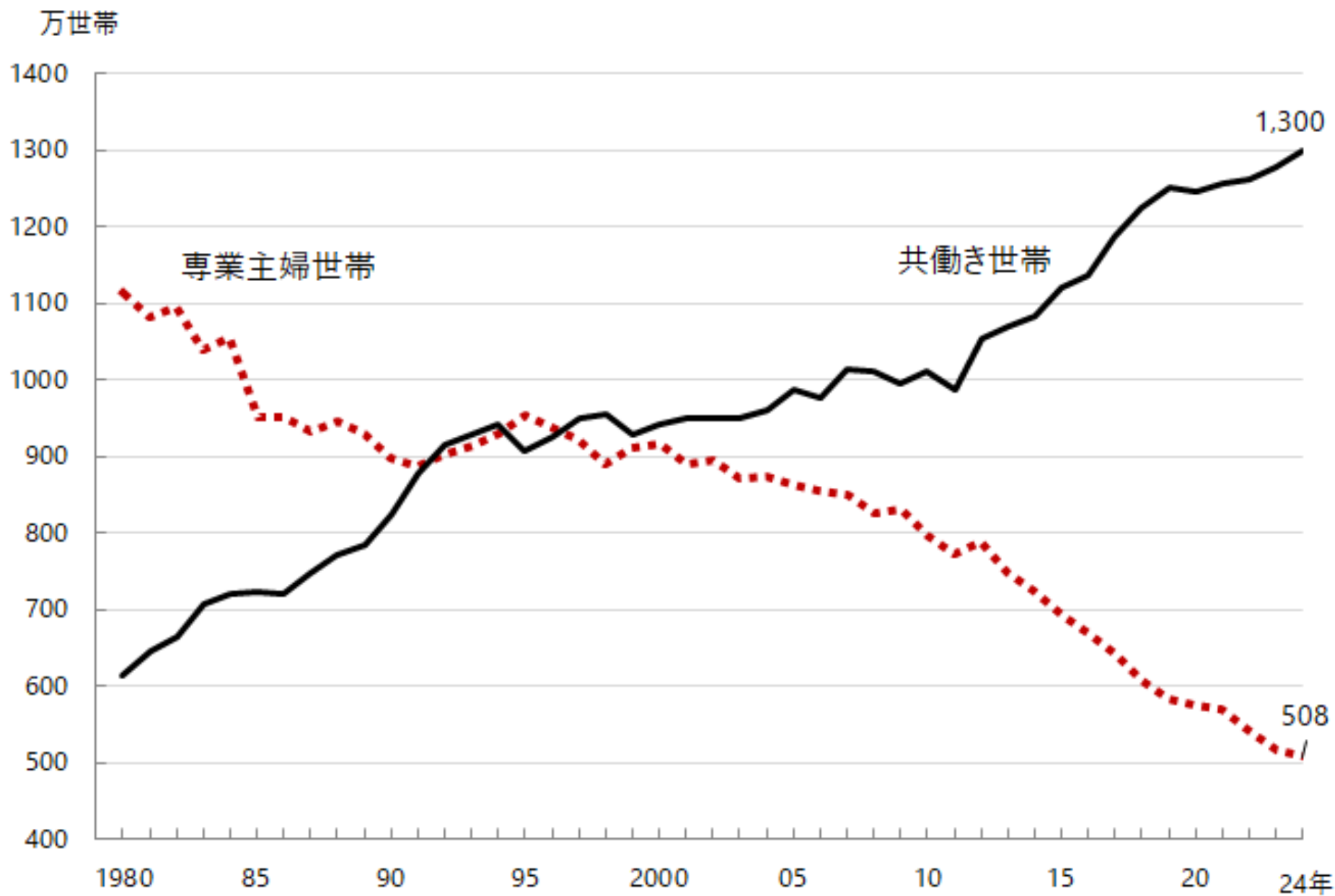
世代間交流機会の減少

世代間ギャップの可視化

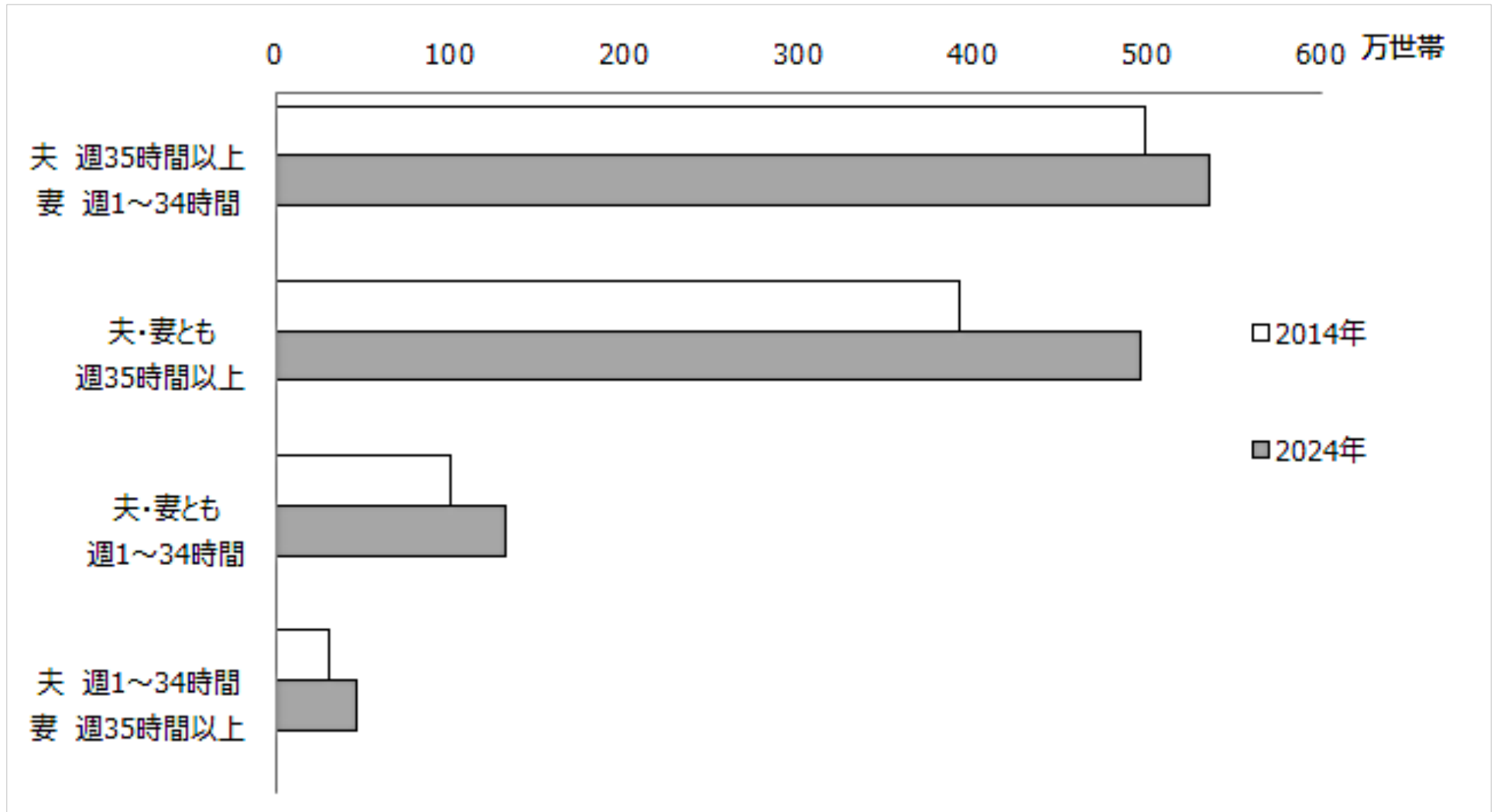


【出典】
日本経済新聞「風見鶏 『楽しい日本』が映す分断の芽 若者世代、崩れる楽観論」 2025/02/15付

※「国民生活に関する世論調査」
(令和6年8月調査) 図19「今後の生活の見通し」を基に同紙作成



出典：独立行政法人労働政策研究・研修機構「共働き世帯の状況」



出典：独立行政法人労働政策研究・研修機構「共働き世帯の状況」

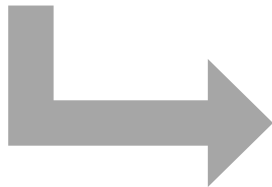


2. 実践者兼伴走者



「人が足りないどころか、いなくなってきた」

「人はいるのに、仲間が足りない」



実証実験（生きた教材）

→ 経験・知見の集約

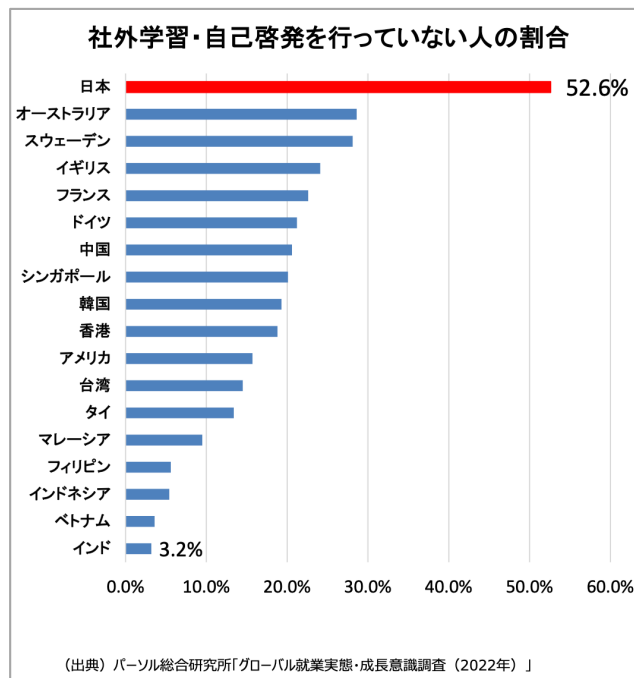
→ 実践知としてさらに横展開

「伴走」≠「傍観」。
プレイヤーとして共に
取り組む

- 「課題解決」と「学び直し」
- 「社会参加」と「ウェルビーイング」

これらが同時に成立するエコシステムを
地域に根づかせようという視点で。

3. 個々人の学びのモチベーター（鼓舞役）



「職業人として学び直したい」
「人生設計を引き直したい」
「課題解決の担い手になりたい」
「地域・社会に役立てる人材に」
「学術研究を志している」・・・

- 学びのニーズは多世代に
- 学びの選択肢や学び続けるための支援策も官民において充実
- 個人のWBと地域の持続可能性が共に高まる可能性大



バイアス（心のハードル）もあり、具体的な行動まで誘発しきれていないおそれ。

人生における学びの意味や醍醐味を、体験的に実感できる機会が必要。

就業者が学習から遠ざかる要因となる7つの「ラーニング・バイアス（学びについての偏った認識・意識）」

名称	概要
「新人」バイアス	学びは新人や若い人だけがやるものである
「学校」バイアス	学びは学校で生徒が行うものである
「自信の欠如」バイアス	学びはもともと得意ではない、自信が無い
「地頭」バイアス	生まれつき知能は決まっていって不変である（固定的知能観）
「現場」バイアス	経験だけが重要であり、学びは必要ない
「タイパ」バイアス	手っ取り早く、正解だけを学びたい
「現状維持」バイアス	今のままで十分仕事ができている

【出典】
株式会社パーソル総合研究所「学び合う組織に関する定量調査」（令和6年2月7日）